女性経営者に聞く！＋プラス

アンダーソン・毛利・友常法律事務所　弁護士

四十山　千代子

（ヨソヤマ　チヨコ）

私は地方の山間部に生まれました。電車は走っておらず、道路には信号がないような地域です。暮らしも楽ではなく、自分にどういう未来が待っているのか、全く想像もできない子供時代を送りました。

18歳のときに進学のため故郷を離れ、京都で学生生活をスタートしました。学生の街、京都での生活はとても楽しく、周りの友達は未来への希望を語ってくれましたが、田舎に老親や継ぎ手がいない荒農地を背負っている自分は、どうやって生きていけばよいのか悩むばかりでした。そんな中、いろいろ回り道もしたのですが、様々な問題を解決するには弁護士になるのが一番よいと結論を出しました。それからは生活費を稼ぎながら独学で勉強し、幸い24歳のときに司法試験に合格することができました。

さて、弁護士の仕事は、なるのが大変だと思われていますが、実は、なってからの方が何倍も大変です。

私の専門は、企業・事業の再生です（普段は、法廷にはほとんど行きません）。人間も、病気にかかったり、ケガをしたり、長い人生では色々ありますが、企業・事業も生きていますから人間と同じです。自力で元気になれればよいのですが、体力が衰えていたり、色々と不運が重なったりすると、自分の力では回復が難しくなることがあります。そのような状況にある企業・事業の再生をお手伝いし、元気になるまでを見届けるという仕事をしています。苦しい状況の中、経営陣や従業員の皆さんと一緒に再生を目指し、再び皆さんが元気に安心して働けるように

同じ事務所の仲間と（前列左端が筆者）

なるのを見届けることは、弁護士として大きなやりがいを感じます。事務所内の仲間や、会計・ビジネスの専門家と協力しながら仕事を進めるのも、連帯感があって楽しいものです。

他方で、この仕事は、忙しいときには土日も昼も夜も関係なく、毎日がジェットコースターに乗っているような状態のこともあるので、自身の私生活を考えた場合、時には困難を伴うことがあります。私は30代で２人の子供に恵まれましたが、当時は、今のようにリモートワークもなかった時代で、子育てと仕事の両立は簡単ではなく、大きな壁にぶち当たりました。

そこでまた、悩みに悩んで、弁護士17年目のときに、一旦、法律事務所を辞めるという選択をしました。「あれだけ苦労して弁護士になったのに」という思いもあったので、とても苦しい決断でした。

次の仕事として選んだのは、銀行の社内弁護士です。企業・事業の再生というのは、実は銀行ととても深く関わる仕事です。銀行は企業に融資をしていますが、その融資が焦げ付くかもしれないという局面ですので、企業側から依頼された弁護士と、銀行とは、基本的には相対する立場にあります。他方、銀行という組織の中には、法律知識と再生の実務経験の両方を持つ専門家がいるわけでありません。それなら、自分が銀行の中でその専門家になればよいのではないか、と考えたのです。当時はまだ、どこの銀行でも、そのような仕事は一般的ではなく、銀行に入ってからも、周りの理解を得るには少し時間がかかりましたが、幸い、同じ方向性を共有できる経営層や同僚と出会いました。生え抜きの行員がほとんどの中、「外から来た人」として異質な存在でしたが、その異質さを活かし、従来の枠からはみ出すような面白い仕事をさせていただきました。

そうしているうちに、子供たちも大きくなり、気

付くと自分にも50歳という人生の節目が近付いてきて、日々、「自分は悔いのない生き方をしているか」、「自分が本当にやりたかったことは何か」と思うようになりました。私が本当にやりたかったこととは、企業の経営陣や従業員の皆さんと一緒になって再生を目指すという仕事であり、それはやはり銀行の中ではできないものでした。そこで、また一弁護士として再スタートを切ることとし、2023年に元の法律事務所に戻りました。

現在は、また以前のように、企業・事業の再生のお手伝いをしています。この25年で色々なことを経験して、またスタート地点に戻ってきたような気持ちです。ただ、以前と異なるのは、一弁護士の立場から見える世界と、銀行側から見える世界の両方を理解できるという点です。両者は、逆の立場から物事を見ていても、目指すところの本質は同じだったりするのです。

最近は、銀行業界も企業・事業の再生に力を入れ始めましたが、天災やコロナ禍、また海外情勢など、日本企業をめぐる経済環境はますます複雑になりつつあります。再生を専門とする弁護士と銀行とは、今後ますます、立場を超えて日本経済のために協力し合わないといけない場面が増えるでしょう。協力には、まず相互理解が必要です。私も、相互の橋渡しとなるような活動にますます力を注いでいこうと思っています。

最後に、自分自身のこの半世紀を振り返ると、子供の頃には想像もできなかった世界で、色々な面白い経験をさせてもらっています。若い頃、強い意志で突き進んで良かったなと思います。

ちなみに、私が親から引き継いだ故郷の農地等は、整備の上、他県から農業を志してやって来た若者に譲ることになりました。先祖代々の土地を手放すのは、ご先祖様からは叱られそうですが、熱意ある若者に大事に育ててもらえることとなり、田畑もきっと喜んでいるだろうと思います。

子育てが落ち着き、35年ぶりにピアノを再開しました。ピアノ仲間とあちこちのホールで弾いています。

品川区五反田文化センターにて

渋谷区ムジカーザにて

京都嵯峨野19世紀ホール